

## 叡山電鉄 愛称と駅舎

当時、先進的な都市であった京都はすでに市電が走って、電車の利便性を体感していた。インクラインや蹴上発電所を造った、有名な京都電燈会社が、これに目をつけて、比叡山延暦寺に参詣する人の利便を目的に電車線を引こうとして「叡山電鉄」を設立した。

設立目的に従って、当初は、出町柳～八瀬比叡山口（当時の駅名）間を開業させ、続いてケーブルカー、ロープウェイを開業させ、比叡山参詣への道を作った。さらに鞍馬寺参詣のための、「鞍馬線」への延伸は、約5年遅れておこなわれ、現在の路線になったようである。

経営上は、紆余曲折があったようですが、京福電鉄時代に西の「嵐山線」と東の「叡山線」との名前が与えられたときから、それぞれ「ランテン」「エイテン」の愛称で呼ばれるようになり、現在も引き継がれ使われています。



鞍馬駅



八瀬遊園地駅

駅舎は、終着駅では、建設当時の面影を充分に残しており、京都にいにしえを求めてくる観光客には、魅力のあるものになっています。

一方、利用者が暫減傾向で苦しかったが、京阪電鉄の参加に入り、「エイテン」の起点である「出町柳」駅は、京阪電鉄駅と直結し、便利になって利用客数も回復したとの情報です。



駅舎らしくない  
新出町柳駅